

ピーター・ドイグ展特集



ピーター・ドイグ展は、当初、2020年2月26日から6月14日まで開催される予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から2月29日から6月11日まで休館しました。その間にドイグ展の次に予定されていた展覧会が延期されることになり、ドイグ展は最終的に10月11日まで延長することになりましたが、ある時までは再開の目処が一向に立たず、たった3日間の開催のみで閉幕する恐れが極めて現実的だった時期もありました。そのため、せめて展覧会の記録だけでも、できるだけ多角的に残そうと、多くの研究者、批評家、作家の方々に、それぞれの知見からドイグ作品及びこの展覧会について記述していただく企画を立ち上げました。未曾有の事態のなか、力を貸して下さった10名の執筆陣には改めて御礼を申し上げます。美術史や同時代美術との比較、観者に対する知



覚的作用、絵画の物理的条件など、実に多様な観点から読み解かれたエッセイ群は、執筆者たちの卓見の賜物であることは言うまでもありません。それと同時にドイグの絵画がさまざまな角度から語られうる、あるいは語りを誘発する性質を持っていることの証左でもありましょう。なお、9月10日から10月30日まで、10名のエッセイに、写真家鷹野隆大さんの展示会場の記録写真を加えた「ピーター・ドイグ展の記録」と題した小冊子を、コンビニエンス・ストアのネットプリントのシステムを利用して配布しました。この小冊子企画は、展覧会の記録を物理的な形で残すという目的で考案されましたが、再開後も館内でのイベントを自粛していた状況にあって、リモートで行うアートジン制作のワークショップのようなものにもなりました。

[企画課主任研究員 榎田倫広]